

〈三重〉明和病院
町からいただいた
安養寺跡発掘調査概要

皇室ゆかりの町、明和町にある済生会明和グループ（当院、特養明和苑、重心なでしこ）は、安養寺跡に建てられています。済生会明和グループの新病院建設工事等に伴い、明和町が発掘調査を実施しました。

明和町の文化財というと、国指定史跡「斎宮跡」の名前が出てきますが、「安養寺跡」は本町にとって斎宮跡に匹敵するほどの価値のある文化財です。

安養寺は、中世に南伊勢で屈指の規模を誇った大寺院で、鎌倉時代の永仁5年（1297）に創建されました。室町時代には幕府や伊勢国司北畠氏から手厚い保護を受け発展していましたが、天正4年（1576）、織田信長軍に攻められ消失したと伝えられています。その後、天正16年（1588）、伊勢街道が付け替えられた頃、現在の場所に移されたといわれています。発掘調査の成果から、大規模な堀があったことが分かりました。堀に囲われた範囲は、南北約200m、東西約170mで、非常に広大な範囲です。

平成11年度から平成26年度までに7回にわたって発掘調査がなされ、多くのものが確認され

ました。出土品の中には、三具足（香炉・花瓶・燭台）もありました。中でも、青磁香炉は重要な遺物だそうです。中世の日本では青磁を作ることはできず、大陸から輸入するしかなかったため、入手することは大変難しかったのです。出土した青磁香炉は中国の元の時代に龍泉窯で生産されたものです。このことから、安養寺が室町幕府や伊勢国司北畠氏と強い関係性を持つていたことが窺えます。

今までの発掘調査によって、安養寺の様子が少しずつ解明されてきましたが、まだまだ謎も多くさらなる成果に期待したいです。

（済生記者 大西里奈）